



## 食べにくいけどおいしくてヘルシー 地域を「ひだか松葉」で活性化

豊岡市商工会 青年部日高支部 **飯田勇太郎さん(32歳)日高町名色**



日高地域のソウルフードといわれるニワトリの鎖骨部分（通称、松葉）を使った料理で地域活性化に取り組む豊岡市商工会青年部日高支部。昨年11月から始まった「ひだか松葉プロジェクト」の発起人が飯田勇太郎さんです。

通常あまり流通しない松葉に自身も子どもたちから親しんできた飯田さんは「日高で松葉を食べられる飲食店を増やし、松葉を広く知ってほしい」と一心発起しました。

食べにくいけどおいしくてヘルシーなことが魅力の松葉。イベントでのPRや飲食店への声掛けなどの結果、現在では約15店舗が提供してくれるようになりました。

「各飲食店で味付けや提供方法が違う。日高の名物にして、京阪神からの集客にもつながれば」と期待を込めます。

# Toyooka Topics —とよおかの“旬”な人と話題—



▲弓射の儀を行う前野副市長

## 気比の浜海開き 安全祈願祭 皆で協力し切り開いた夏シーズン

7月10日、気比の浜海水浴場で海開きが行われ、住民や関係者ら約50人が安全祈願祭に出席。海水浴シーズンの安全とにぎわいを祈願しました。

当日は、美しい青空が広がりましたが、直前までの豪雨で海水浴場は大量の漂着ごみに覆われ、海開きが危ぶまれる状況でした。しかし、地元が一丸となり、海開き前日にごみの大半を撤去。苦勞の末、遠浅の美しい浜辺をよみがえらしました。

気比の浜観光開発協会会長の前場芳幸さんは「海開きできるか大変心配していたが、皆さんの協力で予定どおり行うことができた。災害を契機にあらためて安全に配慮し、事故なく楽しんでもらえる海水浴場を目指したい」と語りました。

## 七夕会 短冊に願いを込めて

7月4日、但東子育てセンターで、一足早い七夕会が開催され、乳幼児とその母親ら約20人が季節の行事を楽しみました。

センターの職員から七夕伝説の説明を受けた後、親子はササに付ける短冊などを製作。持ち帰り用の長さ約1mのササは「友達がたくさんできますように」「三輪車に乗れますように」「野菜をたくさん食べて大きくなりますように」などと書かれた短冊の他、色紙で作ったスイカや魚、星、三角つなぎなどで次々と飾り付けられていきました。

土肥佳代子さん(但東町出合)は「子どもたちの健康を願った。ササは持ち帰って、小学生の子どもにも飾り付けをさせたい」と話していました。



▲子どもの健やかな成長を願う